

「食育の日」～エゾシカバーガー（11月29日）

エゾシカの食害から阿寒湖畔の木々を守る活動に取り組むことから、「生態系のバランス」について様々な考えをもち、話し合ってきた6年生。

今日は、阿寒湖畔の山本さんを教室にお招きし、一緒に給食の「エゾシカバーガー」を食べました。



山本さんからは、エゾシカを駆除しても、その命を無駄にしないことが大切であることや、環境を守る取組を広げ、人を動かすためには「メリット」「経済的な利点」を生み出していくことも必要であることなどについてお話がありました。

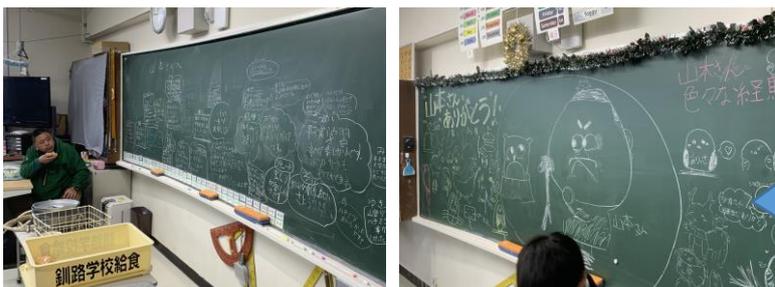


シカの角も、関心をもつ人や欲しいと思う人が多くなれば、立派な「資源」となります。

栄養教諭からは、エゾシカの肉はたんぱく質が豊富で脂質が少なく、鉄分が牛肉の5倍も含まれており、体をつくる栄養に優れているというお話がありました。



地元の自然の恵みを、自分たちの命や体づくりに生かしつなげていく・・・という視点は、この難しい問題への向き合い方の一つとして、子供たちのヒントになったのではないのでしょうか。



教室の黒板一面に、山本さんと阿寒の森への感謝の言葉が綴られていました。阿寒の森や山本さんと関わる学習とも、ひとまずお別れです。

学芸発表会①に向けて～その2（11月29日・30日）



6年生の様子です。
体育館での演技に熱がこもっています。

こちらは2年生。気持ちを動きで表現しています。



3年生は、マットを使って・・・？



4年生、様々な役割に分かれて表現しています



1年生、見た目も表現も、どんどん「きらきら」になってきています。

運動会の時、「運動が得意な子も、苦手な子も、共に運動会をする意味は何なのか」についてこの欄に書いた記憶があります。きっと学芸会も、表現することが好きな子もいれば、恥ずかしかったり勇気が出なかったりする子もいるはずです。

だからこそ、子供たちと先生とが一緒に、「みんなが輝くすべ」を探っていくプロセスに学びが生まれると考えています。そして、「表現」とは、大きな声を出したり、目立ったりする姿だけではなく、もっと多様で自由なのだということに気付き、自分らしく取り組める方法を見付ける姿こそが「成長」なのだと思います。

子供たちが自分らしく輝けるように、私たちも最後まで支えていきます。「学芸発表会①」は、出来栄としてはまだまだ不十分かもしれませんが、子供たちが「こうしたいな」と願って取り組む姿を捉え、アドバイスや励ましの言葉をいただけますと幸いです。

★学芸会情報はこちら～更新しています

https://www.hokkyodai.ac.jp/fuzoku_kus_syo/guardian/gakuzeikair4.html